



昭和初期の織機で織ったマフラー・ショール

全国の織物産地で使われなくなった昭和初期の低速織機を買い集め、改良し、自社オリジナルの織機「着尺一列機」を開発。マフラー、ショール、キャップを企画製造販売。オリジナル織機により、独創的な幾何学模様、優しい肌触りが生まれる。

業況等の動向について

参入事業の概要

織りにこだわった、マフラー、ショール、キャップの企画・製造・販売。販路は、店頭販売(百貨店、小売店、アパレル、雑貨店)と、通信販売(自社HP、大手通販会社)である。

素材は、綿を中心に絹や、夏は麻、冬はウールを使用している。

主に手掛けるのは、「もじり織り」で、全体の 40%近くを占めている。たて糸をよこ糸で縛って織る。平織りの変形でゆったりとした風合いとなっている。

また、独自の織り「たてよこよろけもじり織り」を開発。「よろけ」とは波模様のことである。波状に形成させた特殊筈(おさ)を織機内上下に動かすことにより「よろけ」(波模様)が生じる。この「よろけ」(波模様)を、たて、よこ両方につけた。凹凸感のあるように見え、立体的なデザインが生まれた。

独自の織り、肌触りのよさ、柔らかな風合いが評判を呼び、店舗販売、通販いずれも好調である。

参入した動機や経緯、きっかけ

代表者が、「織り」を迫りたく独立創業。まず「織り」の原点に立ち返るべく、全国の織物産地で使われなくなった昭和初期の低速織機を買い集め、改良し、自社オリジナルの織機「着尺一列機」を開発した。

現在主流の高速織機で織るのではなく、当社の「着尺一列着」は、低速でゆっくり織ることで、独自の幾何学模様、優しい肌触りが生まれる。大量生産とは一線を画す、モノづくりに挑戦している。

マーケティングについて

「Tokyo International Gift Show」への出展を契機に、メディアへの掲載もあって、売上も伸びた。

参入に際しての投資について

創業にかかる費用全般で、建屋、設備費用など。

参入して最も成果のあったこと及び困難だったこと。

「たてよこよろけもじり織りや独創的商品の開発」で、第 3 回ものづくり大賞経済産業大臣賞を受賞(2009 年)。2010 年「ITO」というブランドを立ち上げた。デザイナー「SPREAD」を起用し、若い方、デザイン好きの方をターゲッ

トに、明るい色、今までにない、新しいデザインのストールを製造販売した。この「ITO」ブランドで、2010 年「Good Design 賞」を受賞。他にも、2010 年「アジアデザイン大賞銅賞」受賞など、様々な受賞歴がある。

最も困難だったのは、創業時には個人資金を投じており、その点でリスクが高かったことである。

今後の展望・見通し

低速織機のため、生産量に限りがある。単なる生産・販売量の拡大でなく、より高い品質、よりオリジナリティーのある製品作りを目指す。

メリット・デメリット

メディアの注目により、次の話しにつながった。一つの出会いが、次の出会いを呼ぶ。デメリットは特にない。

異業種参入に際して注意すること、アドバイスなど

動き出すことが肝心。リスクを考慮すると難しい面もあるが、一度動き出すと思わぬ情報や貴重な出会いもある。最初の一步が肝心と考える。

行政への要望について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度
地域資源活用の認定業者となる。アドバイス、補助金。
繊維産業技術センターでの技術相談。

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

情報交換を活発にして欲しい。

会社概要

設立:2010年10月(平成22年)

資本金:300万円

従業員数:10名

URL:http://oriza.jp